

令和 8 年度

「運営に関する計画」

～自己評価～

大阪市立みどり小学校

令和 8 年 5 月

(様式1)

大阪市立みどり小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【不登校児童の現状】

不登校・不登校気味の児童は多いが、これら児童は、担任を中心とする学年での働きかけや養護教諭・教務主任・サポーター等々の教職員による登校支援と安心して活動できる居場所の確保などを通じて、全てではないが、一部の児童について登校できるようになったり、一定時間学校で活動できるようになったりするなどの改善がみられる。一方、新たに不登校・不登校気味となる児童が現れる状況が毎年続いている。

【いじめ事案の発生状況】

昨年度は3件のいじめ事案が確認された。どの事案も重大事態には至っておらず、すべての事案について解決に至っている。いじめの様態としては「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が大多数で、「仲間はずれ、集団による無視をされる」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」と続く。最近はSNSでのトラブルも増えてきている。1000人当たりの比率を比較すると、本校は本市平均に比べかなり低い数値となっている。これは、生活指導委員会を中心にクラスの状況把握やいじめの早期発見の体制を整え、クラス担任を中心に丁寧に児童の観察・看護を行ってきている結果であると考え

【家庭状況等の現状】

令和7年度に2件のケースについて子どもサポート連携して対応してきた。このケースについては経過観察中である。

【全国学力・学習状況、学力経年調査の結果】

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の平均正答率は国語科が65.0%(全国66.8%)、算数科が57.0%(全国58.0%)となり、どちらの教科も僅かに下回る結果となった。正答率分布をみると、国語科は正規分布ではあるが低位層の幅が広い。算数科については、正答率が8割と5割とそれ以下の3極の分布となっている。

令和7年度「学力経年調査」では、同一母集団について調査結果の経過を見ると、調査対象となった4、5、6年生について教科毎の標準化得点は5年生については上昇の傾向が見られた。4年については、前年度よりやや下降、6年については前年度と同じにであった。また、令和7年度の国語科・算数科・理科について、4年生以上の平均正答率4割未満の児童の割合は、R6年度(国11.8% 算14.3% 理9.1%)と比べR7年度においては、〔国4.4% 算8.2% 理3.1%〕となっており、改善していることがわかる。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果】

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点は、男子54.4(大阪市51.5、全国53.2)、女子52.3(大阪市52.6、全国54.0)と男子が大阪市平均および全国平均を上回った。男女とも大阪市平均および全国平均を下回ったものは「握力」「上体起こし」「長座体前屈」の3項目であった。男子においては、それ以外の項目は上回っていた。

【本校の課題】

不登校・不登校気味児童の在籍比率（５．９０）が大阪市全体の在籍比率（１．９７）を上回り、また新たな不登校・不登校気味児童も毎年複数名確認される状況を克服していく必要がある。いじめが不登校の要因となることもあるが、本校においても一定数のいじめ事案が確認されており、いじめ事案の早期発見および丁寧で確実な対応を行いいじめ事案の解消に努めていく必要がある。

こうした課題の克服にむけて、年間の教育活動を通じて多様な活動を取り入れた教育内容を提供することで児童の規範意識、協力・協働の姿勢、他者受容の姿勢を醸成し、また、児童個々の自己肯定感を高めていく必要がある。

学力面に関しては、正答率分布の下位層の児童が課題である。分かる授業楽しい授業の提供、個別最適化された授業の提供を通じて、児童の学習意欲の向上および基礎学力の確実な定着を図っていく必要がある。

体力・運動能力面については、多くの種目で大阪市平均および全国平均を上回る結果となっている。さらに、多様な運動に親しむ機会や体力向上に向けた取り組みを継続的に行っていく。

教職員の「働き方改革」にも取り組んでいるが、単に勤務時間を短縮すればよいというわけではなく、質の高い教育のための各種の準備が必要であり、そのディレンマが課題となっている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 11 年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 98%以上にする。 R7 95.8% (高学年 96.0% 低学年 95.5%)
- 令和11年度のいじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を100%にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、減少させる。
- 令和11年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を95%以上にする。
- 令和 11 年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については 95%以上、高学年については 90%以上とする。 R7 89.4%(低学年 90.2%・高学年 88.5%)
- 令和11年度の校内児童アンケートにおいて、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.01ポイント** 向上させる。
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.01ポイント** 向上させる。
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査の国語・算数について、平均正答率 4 割以下の児童を、いずれの学年も令和 7 年度より **4%** 減少させる。
R7〔国 4.4% 算 8.2% 理 3.1%〕
- 令和 11 年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上とする。
R7〔低学年 94.3% 高学年 92.4%〕
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 R7〔84.1%〕
- 令和 11 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに令和 7 年度よりも 4 ポイント増加させる。 R7〔男 54.4 女 52.3〕
- 令和 11 年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 98%以上とする。 R7〔97.8%〕

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。
R7〔前期 87.7% 後期 92.6%〕
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。
R7 90%
- 令和 11 年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問にたいして肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上とする。 R7〔前期 75.6% 後期 72%〕

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【1 安全・安心な教育の推進】

○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 96%以上にする。 R7 95.8% (高学年 96.0% 低学年 95.5%)

○令和8年度のいじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を90%にする。

○令和 8 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を昨年度より、減少させる。

R7 5.9%

○令和8年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を85%以上にする。

○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については 91%以上、高学年については 88%以上とする。 R7 89.4% (低学年 90.2%・高学年 88.5%)

○令和8年度の校内児童アンケートにおいて、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上とする。

【2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 8 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.01ポイント** 向上させる。

○令和 8 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **0.01ポイント** 向上させる。

○令和 8 年度の小学校学力経年調査の国語・算数について、平均正答率 4 割以下の児童を、いずれの学年も令和 7 年度より **1%** 減少させる。 R7 [国 4.4% 算 8.2% 理 3.1%]

○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上とする。

R7 [低学年 94.3% 高学年 92.4%]

○令和 8 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 R7 [84.1%]

○令和 8 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに令和 7 年度よりも 1 ポイント増加させる。 R7 [男 54.4 女 52.3]

○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 98%以上とする。 R7 [97.8%]

【3 学びを支える教育環境の充実】

○令和 8 年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。

R7〔前期 87.7% 後期 92.6%〕

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 91%以上にする。

R7 90%

○令和 11 年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問にたいして肯定的な回答をする児童の割合を 76%以上とする。R7〔前期 75.6% 後期 72%〕

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立みどり小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【1 安全・安心な教育の推進】 ○令和8年度の校内児童アンケートにおいて、「学校が楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を96%以上にする。 R7 95.8% (高学年 96.0% 低学年 95.5%) ○令和8年度のいじめ対応に係る「振り返りチェックシート」における「『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を90%にする。 ○令和8年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を昨年度より減少させる。 R7 5.9% ○令和8年度の児童虐待防止に関わる研修「研修受講シート」における「児童虐待を発見したり、疑いがある際には、ためらうことなく必ず通告を行いますか」に対して、「はい」と回答する教員等の割合を85%以上にする。 ○令和8年度の校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については91%以上、高学年については88%以上とする。 R7 89.4% (低学年 90.2%・高学年 88.5%) ○令和8年度の校内児童アンケートにおいて、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を85%以上とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 「個人の尊厳」を守り、互いを思いやり、いじめを起こさない集団を育む。(生) 指標① 校内児童アンケートにおいて、「学校は楽しい」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上とする。(R7 95.8%) 指標② いじめ等、問題行動を「いいところみつけ」に記載し、情報の保存・共有・引継ぎを行う割合を100%とする。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校・不登校気味児童、課題を抱える家庭への適切な働きかけを行う。(生) 指標① 不登校・不登校気味の現状を「いいところみつけ」「個別の支援計画」に記載し、校内で共通理解を図る。不登校・不登校気味になる原因を探り、不登校児童の発生の抑制・改善割合を前年度以上とする。また、不登校・不登校気味児童への対応を学級	

担任以外にも支援できる体制の構築に取り組む。(関係諸機関と連携支援体制⇒SCs サポートルーム(仮)・区役所・放課後等デイサービス等) 指標② 生活指導委員会を毎月開催し、児童および児童の家庭環境についての情報交換とスクリーニングを行い、必要な児童・家庭に対応策をとる。学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をとったケースの割合を100%とする。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 防災・減災教育を推進するため、避難方法を周知するとともに、「自助・共助・公助の精神」などの防災意識の向上を図る。(生) 指標 震災、津波、火災、風害を想定した避難訓練を年間を通して計画し、各学期に1回実施する。また、教員へ向けての訓練も併せて実施する。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】 共に学び、共に育ち、共に生きる子どもの育成をめざした人権教育・特別支援教育に取り組む。(研) 指標① 教員研修会や連絡会を毎学期行うとともに、各学年・学級での実践を年1回交流し共通理解を図る。 指標② 共に学び、共に育ち、共に生きる子どもの育成をめざした人権教育および特別支援教育の推進に向けて、全体計画・年間計画の作成と年間を通じた実践を行う。	
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】 キャリアパスポートや懇談会も活用し、児童の自己肯定感・自己有用感の向上に向けた教育の充実を図る。(健) 指標① 校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがありますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を低学年については91%以上、高学年については88%以上にする。 指標② キャリアパスポートを活用し、児童面談や保護者との個人懇談会を年間2回行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
Empty table body for the final row	

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立みどり小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和 8 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント 向上させる。 ○令和 8 年度の小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント 向上させる。 ○令和 8 年度の小学校学力経年調査の国語・算数について、平均正答率 4 割以下の児童を、いずれの学年も令和 7 年度より 1% 減少させる。 R7〔国 4.4% 算 8.2% 理 3.1%〕 ○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上とする。 R7〔低学年 94.3% 高学年 92.4%〕 ○令和 8 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 R7〔84.1%〕 ○令和 8 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに令和 7 年度よりも 1 ポイント増加させる。 R7〔男 54.4 女 52.3〕 ○令和 8 年度の校内児童アンケートにおいて、「体育の時間しっかり運動している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 98%以上とする。 R7〔97.8%〕	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 学力向上をめざし、児童が主体的に学ぶ授業、分かる授業に向けた授業改善に取り組む。また、研究推進委員会や学力向上委員会の活性化を図る。(研) 指標① 研究推進委員会を各学期一回開催し、研究推進の方向性の決定や研究活動の進捗度合いを確認する。各学年の代表授業研究会を全学年 1 回以上行うとともに、全ての教員が公開研究授業を実施する。 指標② 児童の学力向上を図るため、学力向上委員会を各月開催する。学力向上委員会では、学力向上に向けた取り組みの交流や実践の進捗度合いを確認する。 指標③ メンター研修会、校内研修会など教員のニーズに合った各種研修会を年間 10 回以上実	

施する。 指標④ 校内児童アンケートにおいて、「国語、算数の授業はよくわかる」の質問に対して肯定的な回答する児童の割合を 88%以上とする。	
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎・基本の定着による学力の向上をめざし、朝の時間の活用を図る。(研) 指標 週 3 回の朝の時間を活用して英語や漢字、計算等の学習に取り組む。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 児童の個別の課題を把握しながら体力の向上を図る。また、体力向上委員会を活性化し体育科の授業改善や体育的行事を計画実施する。(健) 指標① 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点を男女ともに大阪市平均より 1 ポイント増加させる。 指標② 体力向上委員会を隔月開催し、各学年の体力・運動能力に関する実態把握を進めるとともに、体育科授業の改善や体力・運動能力向上に向けた取組を計画し実施する。	
取組内容④【5 健やかな体の育成】 「保健だより」「給食だより」等を定期的に提供し、児童に規則正しい生活習慣が身に付くように発達段階に応じた指導を図る。(健) 指標① 校内児童アンケートにおいて、「三食（朝食、昼食、夕食）をしっかりと食べようとしている」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。 指標② 保健だより、給食だより、生活目標を毎月提供し、それらをもとに各学級や全校朝会などで指導を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立みどり小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【3 学びを支える教育環境の充実】 ○令和 8 年度末の校内児童アンケートにおいて、「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 92%以上にする。 R7〔前期 87.7% 後期 92.6%〕 ○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 91%以上にする。 R7 90% ○令和 11 年度末の校内児童アンケートにおいて、「進んで本を読んでいる」の質問にたいして肯定的な回答をする児童の割合を 76%以上とする。 R7〔前期 75.6% 後期 72%〕	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育 DX の推進】 一人一台学習者用端末の環境を生かし、タイピング、データの保存や展開、ネット検索、発表ノートやプレゼン資料の作成等において段階的な指導を進め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を進める。(教)	
指標 ICT を活用し、児童が「新たにわかったことがあった」「疑問に思っていたことが解決できた」と実感できるような取り組みを進める。また、校内児童アンケートにおいて「ICT を活用して新たにわかったことがあった、疑問が解決できた」と肯定的な回答をする児童の割合を 88%以上にする。	
取組内容②【8 生涯学習の支援】 子どもたちがすすんで本に親しむ環境を整備し、「読書のできる時間や場の設定」「読書カードの活用」「学級文庫の定期的な入れ替え」などを行うことで、学校図書の効果的な活用に取り組む。(教)	
指標① 各教科との関連図書を活用する取組を年に 2 回以上行う。	
指標② 校内児童アンケートにおいて、「学校で本を読む時間がある」か「本を読むことが好きだ」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上とする。	
取組内容③【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ゲストティーチャーや地域の方、体験的な活動ができる関係機関などの協力を得な	

がら、各学年の実態や発達段階に応じた活動を取り入れる。また、各教科・単元と関連付けて行う。(教)	
指標 各学年の実態に応じ、教科との関連も加味しながら、体験的な学習を全学年とも年間2回以上取り入れる。	
取組内容④【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 円滑な教育活動に取り組めるよう徴収金業務を滞りなく実施する。(庶)	
指標 教育資源である資金の管理について、毎月「未納通知」による周知を行い、2月までに未納率を10%以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
Empty space for analysis	
次年度への改善点	
Empty space for improvement points	

